

年頭のご挨拶

クロマトグラフィー科学会会長
金澤秀子



クロマトグラフィー科学会会員の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃より本学会の活動にご理解とご支援を賜り心より感謝いたします。昨年より伝統ある本学会の会長を仰せつかりましたが、役員をはじめクロマトグラフィー科学会の多くの方々に支えられて新しい年を迎えることができました。

2017年の年頭にあたり、本学会の活動状況をご報告すると共に、ご挨拶を申し上げます。

本学会は、年2回の学術会議（シンポジウムと科学会議）の開催、特にクロマトグラフィー関連の分野で優れた研究を行っている会員の方に対して学会賞や奨励賞等の表彰、そして会誌（CHROMATOGRAPHY）の編集発行を要として活動しております。

クロマトグラフィー科学会の学術会議は、学会設立以来28年間に亘り、クロマトグラフィー関連の研究に携わっていらっしゃる方々の情報交換の場として、クロマトグラフィーシンポジウムとクロマトグラフィー科学会議という形で春と秋にそれぞれ学会を開催しております。昨年は、第23回シンポジウム（2016年6月・山梨大学）および第27回科学会議（2016年11月・慶應義塾大学、東京）が開催され、いずれも大変盛会でした。ご尽力いただきました実行委員の方々、協賛いただきました多数の企業の方々とそして何よりご参加いただきました会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

CHROMATOGRAPHY誌は通常号を年間3号、学術会議要旨集を年間2号発行しておりますが、掲載論文へのDOI付与並びにJ-STAGEへの掲載により論文誌としてのプレゼンスを高め、国際的にも認知され得る存在価値の高い論文誌へと成長させるための取組みをおこなっております。特にJ-STAGEにおいては、掲載受理が決定した論文を直ちにWeb上で公開する早期公開にも対応しており、一流論文誌となるべくインパクトファクター（IF）の取得を目指して、編集体制が着々と確立しつつあります。本学会会員の皆様におかれましては、このような取組みにご理解頂き、IF取得のためにもCHROMATOGRAPHY誌への積極的なご投稿をお願い致します。

クロマトグラフィーは、ご承知のように医薬品・食品をはじめあらゆる分野で汎用されており、品質管理などにおいても国民の安心・安全に貢献するなど、現在の科学研究や社会生活を支える基盤となる技術の一つとして認識されています。クロマトグラフィー関連分野の基礎から応用まで幅広い学術的領域の発展に寄与することを目的としている本クロマトグラフィー科学会の役割は小さくないと考えております。

本年度は、第24回シンポジウム（2017年6月・東北大学）および第28回科学会議（2017年11月・京都大学）が開催される予定です。充実したシンポジウム、講演などが準備されていますので、奮ってご参加いただきますようお願い致します。今年、6月にはHPLC2017がプラハで、さらにサテライトシンポジウムが11月に濟州島で開催されるなど、国際学会への参加の機会も増えると存じます。国際化推進をはじめ、学会のさらなる活性化を目標に、大塚副会長をはじめ、事務局長、編集委員長、理事の方々とともに本学会の益々の発展のために微力を尽くしてまいりたいと存じますので、会員の皆様のより一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。